ピースアクションinオキナワ

～第41回沖縄戦跡・基地めぐり～ に参加しました

日本生協連と沖縄県生協連は、沖縄戦の実相と現在の沖縄が抱える基地問題を学び平和について考える機会として、毎年3月に沖縄で戦跡・基地をめぐる活動に取り組んでいます。

41回目となる今年は、38生協217人の組合員・役職員が沖縄に集いました。とちぎコープからは、小中学生を含む親子3組6名の組合員が参加しました。日本生協連の報告と参加者の感想より、取り組みをふりかえります。

co-op ピースアクション in オキナワ

「ピースアクションinオキナワ」のホームページでは、
沖縄県内の戦跡や基地について、現地に足を運ぶことが出来ない方も、
ご自宅から学んでいただける学習動画を視聴することができます。
https://peace.jccu.coop/okinawa/

コープで広がる、つながる

1日目 学習講演会・懇談会など

● 学習講演会

『沖縄戦・在沖米軍基地から平和について考える～フィールドワークに行く前に考えたいこと～』

（講師：琉球大学 教育学部 副学部長 山口（やまぐち） 剛史（たけし）先生）

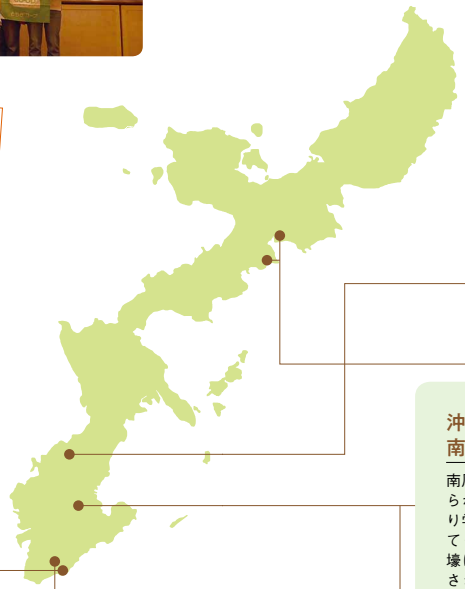
沖縄戦の歴史から、基地問題など現在の課題について、クイズ形式で解説いただきました。

● 講演

『那覇市繁多川（はんたがわ）の住民が見た沖縄戦』

（講師：波平（なみひら） 元維（もとしげ）さん、南（みなみ） 信乃介（しんのすけ）さん）

那覇市繁多川地区で沖縄戦を経験した波平さんへのインタビューを視聴し、その後、同地区公民館館長の南さんより、沖縄戦前後の住民の方々の暮らしについて講演いただきました。



2日目・3日目

沖縄の地上戦ではすべての男女中等学校の生徒たちが動員され、多くが犠牲となりました。
なぜ少年少女が戦争に巻き込まれ犠牲となったのか、どれほど過酷な日々を過ごしたのか、ゆかりある戦跡・資料館を中心に訪問しました。大型バスに分乗し、平和ガイドの説明を聞きながらめぐりました。

嘉数高台（かかずたかだい）

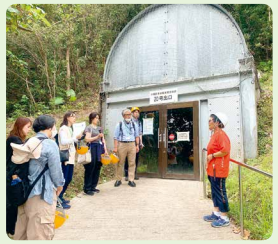
嘉数高台は首里の軍司令部を守るため、その一帯に第一防衛線として陣地を構えました。そのため沖縄戦でもっとも激しい戦いが行われ、日米両軍に多くの死傷者が出ました。現在は、宜野湾市の中央部に米軍の普天間基地があり、嘉数高台公園にある展望台からそこを見下ろすことができます。

辺野古（へのこ）（テント村）・瀬嵩（せだけ）の浜

1995年の米兵による少女暴行事件を契機に、沖縄の米軍基地に反対する運動や普天間基地の返還要求運動が起こり、1997年には名護市辺野古付近への移設案が決まりました。その後、反対の声が上がり、20年以上たった今でもまだ普天間基地はそのままです。

沖縄陸軍病院南風原壕群（はえばるごうぐん）（20号壕）・南風原文化センター

南風原陸軍病院は第32軍直属の沖縄陸軍病院で約30の横穴壕が作られました。病院には、軍医、看護婦、衛生兵などのほか、ひめゆり学徒隊が加わり、戦場から運ばれてくる傷病兵の看護にあたりました。壕はほとんど埋没しましたが、発掘された20号壕が一般公開されています。町立南風原文化センターには、陸軍病院壕の一部を再現し、多くの遺品が展示されています。



魂魄の塔（こんぱく）（沖縄で最初にできた慰霊の塔）

沖縄戦の終わりごろ、米軍の砲火に追われて、多くの人々が米須一帯に追い込まれました。沖縄戦が終わったとき、このあたり一面にたくさんの死体が折り重なっていました。1946年2月、村長と住民が一緒になり、遺骨を集め、納骨所を作りました。素朴な石灰岩に「魂魄」という文字だけが刻まれたこの塔には、住民、軍人など、3万5千余りの遺骨が納められました。

ひめゆりの塔・ひめゆり平和祈念資料館

沖縄戦当時、沖縄には21の男女中等学校があり、すべて戦場に動員されました。女子は看護活動にあたり、そのうち沖縄師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校が、ひめゆり学徒隊として222人の生徒と18人の教師合計240人が南風原の沖縄陸軍病院に動員されました。136人が犠牲になり、戦後、追悼のために塔が建てられました。

飯（めし）あげの道

陸軍病院と近くの集落を結ぶ「飯あげの道」と呼ばれる道は、動員された女子学生たちが米軍の砲弾をかいくぐって、近くの集落で作られた食事や水を運んだ道です。

参加者の感想から

●今回娘と参加したのは、少年少女まで巻き込まれた残酷な戦争が日本であったこと、また、世界の国々で今も戦争が実際に起こっていることを他人事ではなく自分の肌で感じ、平和の大切さを認識してもらいたかったからです。平和は当たり前ではない。平和である為に実際にあったことを忘れてはいけないと思います。

●ガイドさんにおしえてもらったことを、記憶にのこし、友達や家族などに伝えていきたいです。

●壕内をヘルメットを着用して見学しました。壕内は天井が低く暗く湿気が多い。あの中で大人数の負傷者を軍人や看護婦や衛生兵の他に看護補助要員として駆り出された学生が、処置や身の回りの世話をしていたと思うと、いたたまれない気持ちになりました。

●衝撃だったのは、爆弾の破片を見せてもらい、持たせてもらった時の重さでした。とにかくずっしりと重い鉄の塊で、これが飛んできたら避けようもなく、当たれば命を落とす破壊力があると思いました。